

## 抗議の要請文

**1月11日の原子力潜水艦スクラントンの横須賀入港に強く抗議する。横須賀は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦スクラントンはただちに横須賀港から出て行くことを要求する。**

米海軍第7艦隊司令官      フィリップス・ソーヤー中将    殿  
在日米海軍司令官        グレゴリー・フェントン少将    殿  
米海軍横須賀基地司令官      ジェフリー・キム大佐        殿

神奈川県労働組合総連合  
新日本婦人の会神奈川県本部  
神奈川県商工団体連合会  
神奈川県平和委員会  
安保廃棄神奈川県統一促進会議  
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会  
原水爆禁止神奈川県協議会

1月11日午前10時30分、ロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦スクラントンの横須賀基地に入港した。現在、横須賀港には原子力空母ロナルド・レーガンが滞港しており、横須賀港には原子炉が3基存在する危険な事態となっている。今年の原子力潜水艦の入港は1回目、原子力艦船の入港も1回目で通算982回となった。

現在、北朝鮮をめぐる情勢は、歴史的な南北首脳会談、米朝首脳会談の相次ぐ開催を受けて、北朝鮮の非核化、平和体制の確立に向け努力が進められている。この流れは、北東アジアの平和と安全にとって重要であり、私たちは歓迎し前進を期待するものである。ところが、昨年、この流れに逆行し日本近海や西太平洋地域で、自衛隊と米軍の共同訓練・演習が少なくとも121回、延べ1198日に達した。今回の原潜スクラントンの横須賀基地入港は、アジア地域への戦略的な原潜配置で、アジア・太平洋地域へ海洋進出を強めている中国を念頭にした日本近海や西太平洋地域での軍事展開の中での横須賀入港と考えられる。よって原潜スクラントンの入港は、軍事的緊張を高めるものであり、東アジアの平和と安全にとって害はあっても有益性はない。

米政府の2018年「核態勢の見直し(NPR)」は、核兵器を「安全保障に必要」と正当化し、潜水艦発射ミサイル、陸上配備型大陸弾道ミサイル、戦略爆撃機の近代化、小型核弾頭や核巡航ミサイルなどの開発を明らかにした。今後、NPRの実施で、米原子力潜水艦に核兵器が搭載して横須賀基地に入港する可能性が懸念される。日米間の核密約を直ちに破棄すること。非核三原則を国是とする日本の港に核兵器搭載艦入港は絶対に許されない。

首都圏は巨大地震発生の可能性が日々強まり、地震による原子力艦船の原子炉事故も重大である。原子力艦船の原子炉事故による神奈川県民や首都圏住民に原子力艦船の原子炉事故による放射能被害は断じて許されない。米軍は、地震や津波による原子力艦船の事故対策を明らかにし、県民への情報公開を行うことを要求する。

横須賀港は米原子力潜水艦の母港ではない。横須賀基地を戦争の出撃拠点にし、県民を放射能被害の危険にさらす原子力艦船の母港化、入出港をやめること。原潜スクラントンは横須賀港からただちに出て行くことを要求する。

以上